

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
小学校	那智勝浦町立下里小学校	泉 一代
学校所在地		
〒 6 4 9 - 5 1 4 2 東牟婁郡那智勝浦町下里 2 8 6 2 tel 0 7 3 5 (5 8) 0 0 2 1 fax 0 7 3 5 (5 8) 0 9 4 9		
担当者名		役職名・担当教科
野田 智子、中村 悟		教諭・5年生担任 6年生担任
〔学校の概要〕 本校は、郡内でも有数の米作地域である太田川の河口部に位置し、校区内には平野部と海岸台地がある。かつては木材の集散地として人々が盛んに往来したため商業地としても栄えたが、林業の衰退に伴い地域の産業構造も変化した。現在、保護者の多くは地域外に就労しているが、代々当地区で居住している家庭も多い。教育への関心も高く、社会教育活動への参加も熱心で、人々の連帯感も強い。佐藤春夫(1892-1964)の曾祖父で歌人でもあった佐藤百樹が私塾「懸泉堂」を開き教育に当たったことから、歴史的に見ても教育に関心が高い地域であるといえる。		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等（延人数）	主な活動場所
学年 5・6年生 23名	職員 4名	本校、熊野参詣道大辺路・中辺路、熊野本宮大社
実践研究テーマ		
自分の考えを豊かな表現で伝え、学び合うことのできる子どもの育成		
実践教科等名	単元名	
総合的な学習の時間	5年生「発見！地域のたからもの」 6年生「考えよう！地域の未来」	
〔キーワード〕 世界遺産学習 地域学習 総合的な学習の時間		
〔単元目標〕 1, 地域のたからものについて詳しい方や和歌山県世界遺産センターの方々から話を聞いたり、実際に熊野参詣道を歩いたりすることで、自分たちの地域の魅力を理解する。（知識及び技能） 2, 世界遺産の意義や未来に伝え残していくという考え方を知り、これからの地域のあり方について自分なりの考えをもち、発信していく。（思考力、判断力、表現力等） 3, 自分たちの住んでいる地域のたからものについてすすんで調べ、より良い地域の未来について考えようとする。（学びに向かう力、人間性等）		
〔学習に当たった全学習時間数（世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名／教材名）〕 5年 全体 15 時間 （10時間 「世界遺産について調べよう・まとめよう」） 6年 全体 32 時間 （11時間 「考えよう！地域の未来」）		
〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕 なちかつ古道を守る会・那智勝浦町教育委員会生涯学習課 …… 総合的な学習の時間「清水峠を歩こう」 和歌山県世界遺産センター・和歌山県世界遺産マスターの方々 …… 次世代育成事業（世界遺産入門・現地学習 等）		

実践校に関する事項

〔単元指導計画概要〕

< 5 年生 > 「世界遺産について調べよう・まとめよう」

時	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1 ・ 2	<ul style="list-style-type: none"> 世界中の世界遺産を見てみよう。 興味のある世界遺産を調べ、まとめよう。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの経験から、世界遺産について知っていることを出し合うようにする。 インターネットを利用しながら、多くの情報を収集し、個々にまとめるようにする。 	学びに向かう力、人間性等 (観察・ワークシート)
3 ・ 4 ・ 5 ・ 6	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの地域にある世界遺産について調べよう。 熊野三山 熊野那智大社 青岸渡寺 補陀洛山寺 熊野参詣道 那智の滝 那智原始林 	<ul style="list-style-type: none"> 4年生の時に社会科「地域にのこしたいもの」で学習したことや清水峠を歩いたことなどを思い出せるように、昨年の資料を用意しておく。 パンフレットやガイドマップ、インターネットなどで情報を集めるようにする。 	知識及び技能 (ワークシート) 学びに向かう力、人間性等 (観察・ワークシート)
7 ・ 8 ・ 9	<ul style="list-style-type: none"> 世界遺産の場所を訪れよう。 和歌山県世界遺産センターにて、世界遺産講座を受ける。 【フィールドワーク】 熊野参詣道中辺路(伏拝王子跡～熊野本宮大社)を歩こう。 参詣道の保全活動をしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> 世界遺産講座を受講し、世界遺産の価値を理解した上で、参詣道ウォークを行うようにする。 和歌山県世界遺産マスターの方々の話を聞きながら参詣道を歩き、その素晴らしさを実感できるようにする。 実際に道普請の作業を行うことによって、参詣道の今の状態を自分たちで守っていくという意識づけをさせる。 	知識及び技能 (ワークシート) 学びに向かう力、人間性等 (観察・ワークシート)
10	<ul style="list-style-type: none"> 聞いたことや体験したことをもとに学習を振り返り、たからものカードにまとめよう。 	<ul style="list-style-type: none"> 写真、資料、ワークシートを基に学習を振り返る。 フィールドワークで得た情報も活用できるようにする。 	思考力、判断力、表現力 (観察・ワークシート)

< 6 年生 > 「考えよう！地域の未来」

時	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1 ・ 2 ・ 3	<ul style="list-style-type: none"> 地域について詳しく調べよう。 これまで調べてきた地域のこと、調べてみたいことを調べる。 下里古墳、下里水路観測所、懸泉堂、熊野古道、佐藤春夫、那智の滝、勝浦温泉、世界遺産 	<ul style="list-style-type: none"> 社会科や総合的な学習の時間に学習してきたことを振り返るようにする。 パンフレットやガイドマップ、インターネットなどで情報を集めるようにする。 	知識及び技能 (ワークシート) 学びに向かう力、人間性等 (観察・ワークシート)
4 ・ 5 ・ 6	<ul style="list-style-type: none"> 地域の未来について考えよう。 地域に顕在する問題について考える。 地域を活性化していくには、どうすれば良いか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や地域の人たちにも協力してもらい、地域についてのアンケート調査を行い、現実問題として捉えることができるようにする。 	学びに向かう力、人間性等 (観察・ワークシート) 思考力、判断力、表現力 (観察・ワークシート)

7 ・ 8 ・ 9	<p>・世界遺産の場所を訪れよう。 和歌山県世界遺産センターにて、世界遺産講座を受ける。</p> <p>【フィールドワーク】 熊野参詣道中辺路（伏拝王子跡～熊野本宮大社）を歩こう。 参詣道の保全活動をしよう。</p>	<p>・世界遺産講座を受講し、世界遺産の価値を理解した上で、参詣道ウォークを行うようにする。</p> <p>・和歌山県世界遺産マスターの方々のお話を聞きながら参詣道を歩き、その素晴らしさを実感できるようにする。</p> <p>・実際に道普請の作業を行うことによって、参詣道の今の状態を自分たちで守っていくという意識づけをさせる。</p>	<p>知識及び技能 (ワークシート)</p> <p>学びに向かう力、人間性等 (観察・ワークシート)</p>
10 ・ 11	<p>・聞いたことや体験したことをもとに学習を振り返り、ワークシートにまとめよう。</p>	<p>・写真、資料、ワークシートをもとに学習を振り返る。</p> <p>・フィールドワークで得た知識も活用できるようにする。</p> <p>・次单元「地域の未来について提案しよう」につながるよう、世界遺産の考え方やユネスコの理念についても取り上げるようにする。</p>	<p>思考力、判断力、表現力 (観察・ワークシート)</p>

〔単元学習の成果と課題〕

【成果】

5年生は、昨年度総合的な学習の時間に取り組んだ「清水峠を歩こう」の学習で、校区内の世界遺産「熊野参詣道大辺路清水峠」を歩いている。児童たちは、その時の道の様子や巨岩があったことなどをよく記憶していた。今年度は範囲を広げ、熊野地域の世界遺産について学習した。熊野参詣道を実際に自分の足で歩き、世界遺産の偉大さや魅力を肌で感じ取ることができた。また、和歌山県世界遺産マスターの方々から参詣道や熊野詣について等、様々な話を聞かせていただき、「地域のたからもの」としてその魅力を知ることができた。さらに、道普請をさせていただいたおかげで、参詣道を自分たちの手で大切に守っていかなければいけないという意識をもつことができた。

6年生は、社会科で学んだ歴史と重ね合わせて考えるなど、社会科の学習に広まりや深まりが見られた。熊野参詣道を実際に自分の足で歩き、周りに広がる美しい景観を見て、その魅力を、家族をはじめ色々な人に伝えたいという意識をもつようになった。和歌山県世界遺産マスターの方々から、参詣道や昔の熊野詣の様子について教えていただき、昔の人はたいへんな思いをしながらどのような気持ちで参詣道を歩いていたのだろうと思いをはせている姿が見られた。また、道普請をさせていただいたおかげで、参詣道を自分たちの手で大切に守っていかなければいけないという意識をもち、地域の未来を考える上でも必要なものの見方・考え方を学習することができた。

【課題】

5年生・6年生に共通して言えることだが、道普請では、参詣道を自分たちの手で守るという意識をもつことはできたが、歩きやすくするためとしか認識しておらず、参詣道の現状を保護するためということでは理解できていない。小学校段階では、文化財の保護という視点で考えることは難しいが、理解させていく必要がある。

〔世界遺産学習の効果〕

5年生は、世界遺産登録資産を含め昔からある貴重なものや場所を「地域のたからもの」として、下里小学校区から那智勝浦町内、そして熊野地域へと範囲を広げながら学習していった。和歌山県世界遺産センターの方々や、和歌山県世界遺産マスターの皆さんの話を聞き、そして参詣道を歩き熊野本宮大社を見学することで、その価値を肌で感じ取ることができた。そして、そこから逆に身近な地域のたからものへと視点を戻すことで、改めてその価値を見直すことができた。

6年生は、「考えよう、地域の未来」というテーマで学習していく中で、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」を取り上げた。5年生と同じく、座学での世界遺産学習と現地での体験学習を通して、世界遺産の価値を肌で感じ取ることができた。自分たちの地域の未来について、世界遺産の保全と活用の考え方を加味しながら、いかに地域を盛り上げていくのか、児童たちなりに考えることができた。

〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕

世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」についての学習は、平和学習や地域学習をする上で最善の教材になり得るので、今後も是非取り組んでいきたい。しかし、学校（教員）だけで世界遺産学習を進めていくのは、まだ難しく、和歌山県世界遺産センターや町の世界遺産担当課、和歌山県世界遺産マスターの方々等に協力いただくなどして、教員へのサポートが必要である。研修会を開催するなどして、教員への世界遺産学習の普及啓発が必要である。

また、「紀伊山地の霊場と参詣道」の世界遺産としての価値は、小学校では理解しにくいものである。それを、どこまで理解させることができるのか、5年生での学習内容と6年生での学習内容を発達段階に合わせて調整し、今後更なる実践研究を通して、カリキュラム開発をしていく必要がある。校区内に参詣道があるという環境を生かして、今後も世界遺産学習に取り組んでいきたい。自分たちの地域の参詣道は自分たちで守り、未来へ伝え残していくという実践も行っていきたいと考えている。



「一週間で一番心に残ったこと」日記より

ぼくが一週間で一番心に残ったことは、世界遺産の見学です。ぼくが行った世界遺産は、「紀伊山地の霊場と参詣道」（熊野古道）です。世界遺産の三つある種類（文化・自然・複合）の中で、世界文化遺産に指定され、世界に二つしかない道の世界遺産です。

少し歩きづらい山道でしたが、木々の間から差すこもれびが、とてもきれいで感動しました。また、昔、神社へ参拝するためにこの道を通っていた人々が、どんなことを考えて、遠い道のりを自分の足で歩いてきたのか想像すると、参拝するために歩く人々の姿が見えてくるような気がしました。

ぼくは、今回初めて世界遺産を見ました。世界中にある美しい世界遺産を、もっとたくさん見てみたいと思うようになりました。次は、家族のみんなとも一緒に見に行きたいと思いました。

「世界遺産マスターさんへのお手紙より」

熊野古道について、くわしく教えていただき、ありがとうございました。

私が初めて知ったのは、八咫鳥のお話です。八咫鳥は、すぐかかったことがわかりました。他にも、熊野古道についてたくさん教えてくださり、ありがとうございます。昔は、京都から本宮まで十二日間もかけて来ていることを、初めて知りました。

昨日は、熊野古道を案内してくださって、ありがとうございました。私は、「勝浦は年間雨量が一番多かった。」というお話がびっくりしました。山道は、いろんな植物があつて、友達と野いちごがしをしました。本宮大社で、神社に行ったときのマナーも教えてくださって、ありがとうございます。とても楽しかったです。

熊野古道のことなどを教えてくれて、ありがとうございました。最初に69と書かれた看板を見たとき、76の所まで行くのは大変だなと思いました。本宮大社について、お参りしたときは、つかれていたけど、来られてよかったと思いました。この世界遺産の学習を通して、わたしは、もっと世界遺産のことを知りたいと思いました。

熊野古道のことをいっぱい教えていただき、ありがとうございました。私が初めて知ったことは、やたら話すのです。その他にも、京都から十二日歩き続けて本宮大社につくということを知りました。

道普請をして、世界遺産の熊野古道をずっと大切にしていきたいと思いました。いろいろ勉強になりました。ありがとうございました。